

ニューズレター 2017 年度第 3 号

日本音楽表現学会 2018 年 3 月 31 日発行

【巻頭言】表現することの魅力	海津 幸子	p.2
2018-19 年度会長・理事選挙開票結果報告	選挙管理委員長 笹野恵理子	p.3
「第 15 回（平成 23 年度）日本学術振興会賞」受賞候補者の推薦について		p.3
日本音楽表現学会第 16 回（折り鶴）大会のご案内		p.4
ご案内、実行委員会組織、大会日程と会場、プログラム概要と発表者氏名		
受付、アクセス、宿泊、参加費、懇親会、参加申込、総会委任状、等		
新入会員紹介		p.11
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		p.12
会員による DVD リリース		p.13
会員による新刊		p.13
『音楽表現学』Vol.16 原稿募集		p.14
『音楽表現学』Vol.16 に投稿をお考えの方へ		p.15
事務局からの重要なお知らせとお願い		p.16
年会費の納入について		
住所等会員情報の変更		
学会員のサポート制度		
会員への情報公開		
学会発刊の書籍の販売について		
入会手続きについて		
退会手続きについて		
【日本音楽表現学会第 16 回（折り鶴）大会のご案内（会場マップ）		p.20
2017 年度役員・委員等一覧		p.20
編集後記		p.20

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

表現することの魅力

海津 幸子（電子鍵盤楽器／財務担当理事）

我々は、表現することの魅力に取り憑かれてしまった。しかも音楽という、手に掴むこともできなければ、見ることさえ叶わないものである。その音楽のためにどれだけの時間を費やし、どれだけの大金を注ぎ込んだことか。ある意味阿呆らしいほどの浪費。しかし、我々は取り憑かれてしまった。それは神秘的な出会いとしか言いようがないのである。

先日、久しぶりにウィーンのクリスト先生のレッスンを受講した。受講生たちへの要求は厳格で、禁欲的とも言える練習を強いるにもかかわらず、その音楽はなんと自由で伸びやかなことか！

わずかなタッチのズレも聴き逃すことなく指摘され、見逃してもらえない。最高に相応しい魅力的な音を出さねばならないと言う。それでも受講生は心硬くなることはなく、リズムはより生き生きと躍動し、和声はより多彩に響き、旋律は心豊かに歌う音楽になっていくのである。まさに今生きている、喜び怒り、哀しみ楽しむ生身の人間ここに在り。しかも波乱万丈の人生の真っ只中、そんな魅力的な音楽作り。先生とのレッスンはいつも大興奮になってしまう私。提示されたものにインスパイアされ、どんどん発展して行ってしまう。

日がな一日レッスン聴講。その中で、かねてから気になっていた傾向をここでも発見。

音楽の三要素、旋律・和声・リズム。文化圏によって捉え方が異なる様相が見えてくる。東洋人は旋律から音楽を聴き、欧米人は和声で音楽を構築しようとする。そして南半球の人々はリズムの躍動から音

楽に入っていく。そんな様相が実証されるような傾向が、先生のアドバイスをから明らかに見て取れたのである。日本人の受講生の多くは、もっと和声を勉強しなさい、そしてリズムを感じて弾くこと、との指導。

正しい和音を弾くだけでは和声感が良いとは言えない。正しいリズムで弾くだけではリズム感が良いとは言えない。和声進行が持つエネルギーを感じて、それを音として具現すること、リズムが本来持つ躍動を感じて、それを生き生きと活かすこと。美しい旋律には必ずやその背後に和声があり、リズムが大きな意味を持つこと。

私たちは、そのエネルギーや躍動を表現する素晴らしさを、その魔力を知ってしまった。そしてそれらを再創造する喜びも知ってしまった。なんと幸せ者だろう！ その上で、その魔力の仕組みを解明しようとしているのである。しかも自分の視点だけではなく、多面的アプローチが可能な環境なのだ。たとえ一人一人の研究者の発見や研究は小さくとも、それらを繋げていくことで視界が広がり、より高みを臨むことができる。それが楽しくて仕方のない人たちの集合体、日本音楽表現学会はそんな学会だと感じている。

折り鶴大会でもどんな発見や見解が飛び出すか、そしてそれが自分の音楽表現や研究にどのような影響を及ぼすのか。決して大げさではなく楽しみで心躍るのである。



2018-2019 年度会長・理事選挙結果報告

日本音楽表現学会会長

後藤 丹 様

2018年3月24日

2017年度選挙管理委員会

委員長 笹野恵理子



委員 大澤 智恵



〃 榎下 達也



2017年度選挙管理委員会では2018-19年度会長・理事選挙の開票を2018年3月24日(土)に本学会事務所において行いました。その結果をここに報告いたします。

記

	役 職	候補者氏名	得票数
1. 有権者数 : 545名	会 長	後藤 丹	263票
2. 投票者総数: 281名 (51.6%)	理 事	安藤 珠希	247票
3. 有効投票数: 277票	〃	小野 亮祐	251票
4. 無効票: 4票(期限超過:消印無効)	〃	海津 幸子	243票
5. 有効投票数における各候補者の得票数	〃	加藤富美子	251票
	〃	澤田まゆみ	254票
	〃	舟橋三十子	247票
	〃	山名 敏之	252票
	〃	渡会 純一	245票

「第15回(平成30年度)日本学術振興会賞」受賞候補者の推薦について

日本学術振興会から平成30年度「日本学術振興会賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の3つの条件に合致する会員は学会から推薦を検討しますので、事務局にまでHP掲載のフォームをお送り下さい。

1) 対象者の条件・45歳未満。

- ・博士の学位を取得もしくは同等以上。
- ・日本国籍を有する者もしくは日本で5年以上研究している外国人

★日本音楽表現学会独自の推薦条件を充足していること。

- ① 『音楽表現学』または『音楽表現学のフィールド』に論文が掲載されていること
- ② 推薦者のうち1名は学会員であること
- ③ 申請希望者は原則として30日前までに学会事務局まで申し出ること

2) 申し出の〆切 2018年4月3日(火)

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を理事会にて1名選出します。候補者として選ばれた方は振興会賞の受付期間(4月6日(金)―11日(水))までに書類を準備、必着で学術振興会に書類を送ることになります。ご質問等がありましたら事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp までご連絡下さい。

日本音楽表現学会 第16回（折り鶴）大会のご案内

再び広島へ—大会参加のお誘い

日本音楽表現学会会長 後藤 丹^{まこと}

16年前、初めて見る広島の街の美しさに感嘆しながら、いくつもの橋を渡って第1回大会の会場にたどり着いたことを思い出します。この時、初対面だった何名かの会員とは今も交流が続き、大袈裟ではなく、私の音楽人生を大きく変えてくれました。

全国には同じ系統の音楽分野に興味を持ち研究する人が少数であっても存在し、その多くはこの音楽表現学会に名を連ねています。しかし、実際に大会に来て顔を合わせなければ、出会いのチャンスはなく、なかなか広がらないものです。

今回は実行委員長の原田宏司さんによる基調講演で「音楽はいかにヒロシマを伝えてきたか」について語っていただき、続くレクチャーコンサートでは「原爆の記憶と音楽」がテーマとなります。

再び巡ってきた広島の地で、極限の体験と音楽とがどのように向き合えるのかという重いテーマについても、共に考えてみましょう。

第16回「折り鶴」大会へのご招待

大会実行委員長 原田 宏司

今年の全国大会は、広島市の北西部に位置する広島文化学園長東キャンパスで開催されます。広島に原爆が投下されたのは今から73年前のことですが、今ではすっかり近代的な都市へと発展し、めざましい変貌をとげました。当時、中学生であった佐々木禎子さんが白血病と闘いながら、快復を願って折り鶴を折り続けたというエピソードは全世界に広まり、「折り鶴」は平和を象徴する言葉として用いられるようになりました。同時に、平和の原点を意味する言葉でもあります。

振り返ってみれば、本学会の記念すべき第1回大会が開催されたのもこの広島です。それから本学会は16年の歩みを重ねてきました。この広島大会が、本学会と平和という二つの原点を振り返ることのできる絶好の機会になればと願っています。実行委員会一同、皆様のご来広を心よりお待ちしております。

1) 大会実行委員会組織（敬称略）：

実行委員長：原田宏司 事務局長：権藤敦子
 渉外：徳永 崇、山下敬子、大野内愛、伊藤憲孝
 総務・会場：高旗健次、末永雅子、高橋千絵、長山 弘
 会計：寺内大輔
 実行委員会企画：松前良昌、光平有希、竹下可奈子

2) 大会日程と会場：

8日(金)												16:00 ——— 18:00 ———		
理事会→会場設営→プレコンへ合流														
9日(土)														
10:00	12:00	13:00	13:15	13:20	15:20	15:40	16:40	16:50	17:50	19:00	21:00			
会場準備 編集委員会	受付 機器調整	開 会 式	基調講演—レクチャーコンサート				休 憩	総 会	休 憩	サ ロ ン	移 動	懇 親 会		
本館5Fロビー		本館5F 音 楽 講 義 室						A~H室		メルパルク広島				
10日(日)														
8:30	9:00-9:40	9:50-10:30	10:40-11:20	11:30-12:10	12:20-13:00	13:10-13:50	14:00-14:40	14:50-15:30	15:40-16:20	16:30-17:10	17:20-18:20			
受付 機器調整	分 科 会										理 事 会			
本館1Fロビー	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	撤 収 復 元			
A~G分科会室														

3) プログラム概要と発表者等氏名（敬称略）：

オープニング：「長東祭太鼓」 演奏：広島文化学園大学和太鼓チーム
 基調講演：「音楽はいかにヒロシマを伝えてきたか」 原田宏司

レクチャーコンサート「原爆の記憶と音楽」

- I 被爆体験者（直接／間接的体験者）の表現
- II 原爆詩（被爆詩人によるテキスト）の表現
- III 戦争体験者、被爆二世の作曲家の表現

企画・解説：能登原由美 司会：光平有希

演奏：末永雅子（ピアノ）・高旗健次（ヴァイオリン）・乗松恵美（声楽）・多田愉可（ピアノ）

合唱団 ある 福原泰弘・松前良昌（指揮） 恩田絵美（ピアノ）

趣旨：戦争や原爆の体験を語ることは難しい。とりわけ原爆のような未曾有の大惨事を体験した者にとっては、凄惨な記憶を呼び起こすことへの強い抵抗とともに、他者（とりわけ体験していない者）と記憶を決して共有できないというもどかしさがあるだろう。ただし、言葉で語ることは難しくとも、音であれば表現できる場合もあるかもしれない。被爆から70年が過ぎ、被爆体験の風化と継承が叫ばれる中、音楽による記憶の共有と継承の可能性について、いくつかの音楽作品を聴きながら考える機会としたい。

実行委員会からのメッセージ：第16回大会は、平和な未来へと思いを寄せながら、被爆地ヒロシマで開催いたします。皆様のお越しを心よりお待ちしております。可能でしたら、開会前に一寸平和記念公園をお訪ねください。平和記念資料館東館地下には、実行委員会企画と関係の深い「ヒロシマと音楽」委員会が中心になって収集した音楽資料も収められています。資料館は8:30から、情報資料室は9:00からオープンしています。

詳しくは広島平和記念資料館平和データベースで、<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/database/>（本館はリニューアル工事中のため、東館のみ）

サロン：この時間帯はすべて「サロン」となります。サロンでは専門や関心を同じくする会員が集まり、共通の話題・テーマについて話し合います。当日会員、地域の音楽家も交えてサロンらしいディスカッションが行われます。詳細は『大会要項』でお知らせします。

- ・作曲のサロン
- ・指揮のサロン
- ・声のサロン
- ・ソルフェージュのサロン
- ・ピアノのサロン
- ・管弦打楽器のサロン
- ・日本音楽のサロン
- ・音楽表現と社会のサロン

研究発表等はすべて6月10日（日）に行います。分科会時間帯は以下の通りです。

ア) 40分枠の発表、司会者は2本を1セット		イ) 90分枠の発表 司会者は1本を1セット	
時間帯 1 9:00-9:40	時間帯 6 13:10-13:50	会場設営や発表協力者準備・撤収に時間を要するものがありますので、そのための時間帯を設けています。	
時間帯 2 9:50-10:30	時間帯 7 14:00-14:40	時間帯 1-2 9:00-10:30	時間帯 2-3 9:50-11:20
時間帯 3 10:40-11:20	時間帯 8 14:50-15:30	時間帯 4-5 11:30-13:00	時間帯 6-7 13:10-14:40
時間帯 4 11:30-12:10	時間帯 9 15:40-16:20	時間帯 7-8 13:10-14:40	時間帯 9-10 15:40-17:10
時間帯 5 12:20-13:00	時間帯 10 16:30-17:10	時間帯 9-10 15:40-17:10	

時間帯 司会者 発表種 発表者 発表題目

- A1 嶋田 由美 CP 渚 智佳、河瀬 諭、岡野 真裕、熊坂 好孝
児童のアンサンブル演奏における協調方略の観察
- 2 " PP 河原 千尋
滝廉太郎の遺作「憾」^{うらみ}をピアノ演奏で実証する演奏解釈
- 3 舟橋三十子 PP 西角 優
高田三郎作曲〈混声合唱のための《典礼聖歌》〉に関する研究
—ミサ賛歌《やまとのささげうた》より—

4	〃	PP	阿部亮太郎 三善晃の創作活動における戦争体験の意味
5	大竹 紀子	PP	徳永 崇 柴田南雄の晩年のシアター・ピースの特徴 —「シアター・ピースの新しいシリーズ」に着目して—
6	〃	PP	前田ゆき江 カロール・シマノフスキーの音楽的表現—トリルとトレモロの視座から—
7	谷口 雄資	PP	中田 知宏 リヒャルト・ワーグナーの管弦楽におけるチューバの用法
8	〃	PP	後藤 丹 魔王は声色を使って忍び寄る
9	小川 容子	PP	宮田 知絵 保育の唱歌〈たなばたさま〉語句の考察を基とし、日本の文化と伝承を多面的に見た作品研究
10	〃	PP	村尾 忠廣 幼児の歌唱教材における〈サビ〉と〈アンティシペーション〉
B1	斎藤 武	PP	上野 仁 音楽表現と哲学の接点—ベルクの作風とアドルノの哲学—
2	〃	PP	曾田 裕司 ジョン・ケージにとってダダイズムとは何だったのか
3	大場 俊一	PP	三島 郁 リーマンの『通奏低音の手引き』における「ゲネラルバス」の機能と役割
4	〃	PP	橋本 晋哉 17世紀から19世紀におけるセルパンの変遷について
5	宮本賢二郎	PP	田邊健太郎 アコースマティックに関する哲学的考察
6	〃	PP	清水 稔 音楽を作る「こと」の現象学的視点による意味作用のモデル —時間軸上における自己の認識構造からの考察—
7	佐川 馨	PP	坪井眞里子 鑑賞授業におけるライブ性を考察する—表現活動の関連性を視野に—
8	〃	PP	小島 エマ 子どもと教師を共に育てる無伴奏歌唱教材とは
9	中村 隆夫	PP	甲斐万里子 演奏評価における項目別評価と総合的な印象の矛盾にみる評価上の課題
10	〃	PP	小野 亮祐 19世紀ドイツにおける「《おもちゃの交響曲》現象」序説
C1	岡 健吾	PP	仙田 真帆 ウォーミングアップ時における長距離走者の音楽利用とその効果
2	〃	PP	中 磯子 集団での歌唱（斉唱）における曲調の違いが与える心理的影響
3	荒川 恵子	PP	田中 昌司 イメージ演奏におけるメンタライジングの脳内ネットワーク
4	〃	PP	久保田 葉子 地域に根ざした朗読詩に基づく創作活動 —思考と対話を深める音楽づくりと表現活動の展開—
5	中村 公俊	PP	高旗 健次 C. フレッシュのヴァイオリン奏法の特徴 —I. ガラミアンの「基礎技術」との比較を中心として—
6	〃	PP	吉永 誠吾 ホームマン・バイオリン教則本の二重奏曲によるアンサンブル指導のためのCD教材 製作

- 7 中村 文緒 PP 杉山 雄一
編曲という表現行為の許容範囲について考える
— G. Finzi : 5 Bagatelles のヴィオラ用編曲譜を例に—
- 8 ” PP 飯村 諭吉
小森宗太郎のストローク奏法に関する教材史的検討—各打楽器の練習法に着目して—
- 9 笹野恵理子 PP 近藤 真子
音楽科におけるグループ問題解決学習過程での子どもの非言語・音楽的コミュニケーションの特徴と役割
- 10 ” DM 奥 忍
能はおもしろい③「囃子の体験学習」
- D1-2 寺内 大輔 PP 松浦 伸吾
誰でも参加できる即興合奏の実践およびその構成方法の考察
—「演奏行為は誰のものなのか？」という問い—
- 4-5 近藤 晶子 CS 小畑 郁男・佐野 仁美
鍵盤楽器に親しむ方法の開発—MIDI を用いた視覚要素の活用—
- 7-8 古庵 晶子 WS 鈴木 昇敏
シルバーサポーターとしての尺八による音楽療法の構築
- 9-10 稲木 真司 CP 尾見 敦子・中 磯子・枝村 美夏
コダエイの理念に基づく「教師の音楽性と教授法」のスキルアップ・プログラム
—オーストラリアの Summer School Music Program の概要と受講者の学び—
- E1 伊野 義博 PP 鈴木 慎一郎
《貝殻節》の教材化における現状と課題
- 2 ” PP 鶴澤 友球
自主企画【鶴澤友球 浄瑠璃おうちライブ】の成果と課題
—第1回から第38回までを振り返って—
- 3 梅原 圭 PP 国府 華子
音楽家としての犬童球溪の功績について—作曲作品の分析を通して—
- 4 ” PP 板野 晴子
天野蝶の作品に見られる音楽表現の変遷に関する研究
- 5 檜下 達也 PP 櫻井 知子
動機づけに見る音楽的技術向上について
- 6 ” PP 亀井 貴幸
保育士養成のためのギター指導法
- 7 菅 道子 PP 永岡 都
音楽教育における身体表現活動の再考
—幼児教育と教員養成を横断する教育プログラムの構想—
- 8 ” CP 竹下可奈子・ズビャーギナ章子
視覚特別支援学校における音楽科教育の目標達成度および教員の抱える困難
- 9 佐々木正利 PP 藤田 光子
保育者養成校におけるわらべうたの遊びの調べ学習から
- 10 ” PP 阿部 真子
保育士や幼稚園・小学校教員に必要な歌唱技術の習得に際し、有用なヴォイス・トレーニングを模索する—音程が取れない学生への指導事例から—
- F1 小西 潤子 PP 木村 貴紀
音楽批評の多義性と可能性 (仮)
- 2 ” PP 藤原 嘉文
音楽の即興表現を考える (7) —Duet による応用演奏力育成の可能性—
- 3 紺谷 志野 PP 武本 京子
医教連携による音楽が人の生理的反応に及ぼす影響 (第1報)

- 4 " PP 市橋 奈々・近藤 有紀乃・佐野 美咲
「イメージ奏法」による楽曲を映像化する試みとその効果
- 5 岡田 敦子 PP 兼重 直文
ピアノ演奏基礎能力に関する研究—ボースティックと3視点録画を用いた最終報告—
- 6 " PP 深井 尚子
ベートーヴェン《ピアノソナタ》作品 111 の解釈の再考—古典派とロマン派の境界—
- 7 藤本 逸子 PP 中畑 淳
声楽伴奏における、音楽要素を中心とした作品解釈とピアノ伴奏の指導
- 8 " PP 河本 洋一
日本におけるヒューマンビートボックスの萌芽期に関する人物史的研究
- 9 安田 香 PP 野崎 博子
シェーンベルクの「六つのピアノ小品」と絵画
- G2-3 永岡和香子 WS 石場 惇史
『身体表現のための西洋音楽の感じ方・捉え方の基本事項について』をテーマに長野
県塩尻市で実施したダンス音楽セミナーの成果について
- 6-7 三島 郁・山名 敏之・森本 英希
学会企画「音楽表現の伝統と伝承⑥」
—楽器の「ヒストリカル」と「モダン」をどう考える—
- 9-10 杉江 淑子 CP 金谷こうすけ・滝田 善子
実践的ジャズ試論 —シンガーはバンドの一員たり得るか—

4) 受付：会場に入る前に必ず受付をして参加者ネームプレートや大会用文書をお受け取りください。

9 日受付：本館 5 階 0501 音楽講義室前ロビー

10 日受付：本館 1 階玄関ロビー

5) アクセス：<http://www.hbg.ac.jp/access/index.html#select2-1>

A：JR 広島駅南口⑩バス乗場から「広島文化学園」行乗車、または

「広島文化学園・祇園が丘」行乗車（八丁堀・紙屋町・横川駅前経由）「広島文化学園」下車（所用時間約 30 分）。バス路線 http://www.hiroko-group.co.jp/kotsu/rosen_jikoku/jikokupdf/hirabara.pdf

B：JR 広島駅から JR 可部線「安芸長束」駅下車（所用時間約 15 分）。下車後、徒歩 1 km 弱の平坦路 の後、100 m の上り坂、最後に 108 段の階段、困難な方にはバス道の上り坂があります。

JR 時刻表 http://ekikara.jp/newdata/line/2701311/down1_1.htm

C：広島空港からリムジンバス

①「広島バスセンター」行（所用時間約 50 分）。紙屋町エディオン新館前から上記 A

②「広島駅新幹線口」行（所用時間約 45 分）。広島駅前から上記 A または B

リムジンバス時刻表 <http://www.hij.airport.jp/timetable/access/timetable.pl?mode=jp>

D：タクシー利用

広島駅—大学は 1750 円程度、紙屋町—大学が 1670 円程度（道路状況にもよります）

数人で乗れば、電車代相当になります。

*

土日の大学行きバスは数が少なくなっています。10 日の開始時刻に間に合うのは JR 広島駅 08:18 発の 1 本です。大きな荷物を持つ人が多いと途中で乗れない可能性も考えられます。ご留意下さい。

6) 宿泊：お早目にご手配ください。広島駅周辺にはこのほかにも多数ホテルがあります。

紙屋町バス停 リーガロイヤルホテル広島 <https://www.rihga.co.jp/hiroshima>
パークサイドホテル広島平和公園前 <https://www.park-side.co.jp>
ホテルメルパルク広島 <https://www.mielparque.jp/hiroshima/>
鯉城会館 <http://www.rijoyo-kaikan.jp>
ひろしま国際ホテル <http://www.kokusai.gr.jp>

八丁堀バス停 広島ワシントンホテル <http://washington-hotels.jp/hiroshima/>
チサンホテル広島 <https://www.solarehotels.com/hotel/chugoku/hiroshima/chisunhotel-hiroshima.html>
CANDEO HOTELS (カンデオホテルズ) 広島八丁堀 <https://www.candeohotels.com/hiroshima-hatchobori/>
アーバイン広島セントラル <http://www.urbain-hotels.com/hce/>

広島駅 アパホテル<広島駅前大橋> https://www.apahotel.com/hotel/chugoku/06_hiroshima-ekimae-ohashi/
ヴィアイン広島 <https://www.viainn.com/hiroshima/>
ホテル川島 <http://www.hotel-kawashima.com>
グリーンリッチホテル広島新幹線口 <http://www.gr-hiroshima.com>

7) 参加費： 学会員：5,000円 当日一般会員 1日につき 3,000円 学部生 1日につき 2,000円
懇親会：5,500円
弁当（お茶・お汁付）：1,000円

8) 懇親会：9日（土）19:00～21:00 於 ホテルメルパルク広島（広島市中区紙屋町）

○広島文化学園大学からのアクセス

18:05、18:40 広島駅行バス→紙屋町旧広島市民球場跡地、原爆ドーム前下車（約20分 250円）

18:16、18:30 JR 安芸長束→新白島（190円）広島高速交通アストラムライン乗換→県庁前下車
西1番出口 190円）

タクシー（城北タクシー 082-239-1295）約15分

* 懇親会会場 ホテルメルパルク広島 広島文化学園大学とJR広島駅の間地点にあり、近くに原爆ドーム、平和記念公園があります。



- 9) 参加申込：以下の書式の該当項目に(✓)をご記入ください。
 学会員以外の方は、一般(大学院生を含む)か学部生の別を該当項目に✓してお示しください。
 参加費を大会参加用郵便払込取扱票で払い込んで該当欄に✓してください。

【学会員用書式】	
第16回(折り鶴)大会参加申込書	
必要事項をご記入下さい。該当する□に✓を付けて下さい。	
ご氏名：	_____
連絡先：〒	_____
	E-mail
緊急連絡：(携帯電話等)	_____
参加費：□	5,000円
懇親会費：□	5,500円
10(日)の弁当(お茶お汁付) □	1,000円
合計：	_____円
送金先：『大会参加用郵便払込取扱票』 ゆうちょ銀行 01370=6=78225 日本音楽表現学会	
□ 振込済 (月 日)	

- ・参加費の払込：必ず郵便振替をお願いします。「大会参加用郵便払込取扱票」をお使い下さい。
振込領収書は念のため当日ご持参下さい。
事務局に参加をお申し込み下さい。郵便振込票を送ります。
- ・10日の昼食：温かいお汁付き弁当(1,000円)を希望される方は参加と共に申し込みください。なお、準備の都合がありますので5月25日24時で申込みを〆切ります。それ以後は受け付けません。
- ・申込書宛先： 記入事項をご確認の上、学会事務局までメールでお送り下さい。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp
- ・参加申込〆切： 5月25日(金)24時 厳守
5月25日以降は、直接会場でお申し込みください。

参加費は期限までにお振込みいただき、当日振込票を念のため必ずご持参ください。

【会員外参加者用書式】	
第16回(折り鶴)大会参加申込書	
必要事項をご記入下さい。該当する□に✓を付けて下さい。	
ご氏名：	_____
連絡先：〒	_____
	E-mail
緊急連絡：(携帯電話等)	_____
参加費：□一般参加者 1日につき3,000円.....	参加希望日()9日()10日 小計_____円
□学部学生 1日につき2,000円.....	参加希望日()9日()10日 小計_____円
所属大学・学部名 ()	
懇親会費：	□ 5,500円
10日(日)の弁当(お茶・お汁付)	□ 1,000円
合計：	_____円
送金先：『大会参加用郵便払込取扱票』 ゆうちょ銀行 01370=6=78225 日本音楽表現学会	
□ 振込済 (月 日)	

- 10) 総会委任状：
 2018年度(折り鶴)総会にご欠席の方は必ず委任状をご提出下さい。メールアドレスを押印に代えさせていただきます。

2018年度総会委任状
総会に欠席いたしますので議事については 議長に一任します。
ご氏名：_____
年月日：_____

新入会員紹介

個人情報につき削除しています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

宮田 知絵 さん コーラスとソロの響演～白銀の二月に歌う～
岡田 孝 さん 日 時：2018年2月20日（火）2時開演
会 場：兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
料 金：2,000円
出 演 者：宮田知絵（ソプラノ）、岡田孝（指揮）、他
主な曲目：小林秀雄：《瞳》、演奏会用アリア《すてきな春に》、山田耕筰：《からたちの花》、
《青い小鳥》、石若雅弥：女声合唱とピアノのための《生きる理由（全曲）》、他
主催後援：関西合唱連盟、奈良県合唱連盟

大木 美穂 さん 音楽をする人のためのメンタルトレーニングワークショップ
日 時：2018年4月15日（日）12:45-14:45
会 場：東京音楽院（新宿区新宿5-11-20 伊土ビル202）東京メトロ新宿三丁目
料 金：2000円（高校生以下1500円）
主催後援：東京音楽院
出 演 者：大木美穂

安藤 政輝 さん 安藤政輝リサイタル 宮城道雄全作品連続演奏会 18
日 時：2018年4月23日（月）19:00開演
会 場：紀尾井小ホール
料 金：前売：4,500円／当日売：5,000円
出 演 者：安藤政輝、安藤珠希、他
主な曲目：《寄桜祝》《防人の歌》《大空の歌》《秋の流れ》《漁村の曙》、他
後 援：（公財）日本伝統文化振興財団
連 絡 先：ando.masateru@gmail.com、03-3425-3939

澤田まゆみ さん 澤田まゆみピアノリサイタル
日 時：2018年4月28日（土）14:00開演

会 場：Hakuju Hall
料 金：3500 円（全席指定）
主 催：アルペジオーネ・ソサエティー
主な曲目：ブクステフーデ：トッカータ BuxWV165、バッハ：ゴルトベルク変奏曲 BWV988 他
問 合 先：新演 Tel.03-3561-5012

豊田 典子 さん **歌の会★青い星が贈る世界の名歌 100 曲リクエストコンサート Vol.2**
日 時：2018 年 7 月 16 日（月・祝）14:00 開演
会 場：大丸心齋橋劇場（大丸心齋橋店北館 14 階）
料 金：2,500 円
出 演 者：豊田典子（ソプラノ）、他
主な曲目：花は咲く、「ジャンニ・スキッキ」より私のお父さん他全 100 曲
主催後援：歌の会青い星 その他後援：神戸波の会・ひょうご日本歌曲の会他 3 団体
問 合 先：大丸心齋橋劇場 06-7711-7600

高旗 健次 さん **ピアノトリオの午後**
日 時：2018 年 9 月 22 日（土）14:00 開演
会 場：豊中市立文化芸術センター小ホール
料 金：一般：3,000 円（当日 3,500 円）、学生：1,000 円（当日 1,500 円）
出 演 者：高旗健次（バイオリン）、他
曲 目：ハイドン：ピアノ三重奏曲 第 39 番 ト長調 Hob.XV:25、他
主催後援：ピアノトリオの午後実行委員会
問 合 先：ピアノトリオの午後実行委員会 Tel. 0798-77-5443 vcbinko@yahoo.co.jp

高旗 健次 さん **高旗健次ドミトリー フェイギン・新見フェイギン浩子 室内楽の午後 Vol.6**
日 時：2018 年 10 月 28 日（日）14:30 開演
会 場：広島県東広島芸術文化ホールくらら 小ホール
料 金：一般：3,000 円、学生（大学学部生以下）：1,000 円
出 演 者：高旗健次（バイオリン）、他
主な曲目：スメタナ：ピアノ三重奏曲ト短調、メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲第 2 番
ハ短調 作品 66
主催後援：広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座弦楽研究室
共 催：東広島芸術文化ホール指定管理者

会員による新刊

奥 忍 さん 装丁・デザイン・編集 李 陽著『荒城の月変奏曲』
発行年月日：2017 年 11 月 30 日
出 版 社：株式会社 ホッタ楽譜
定 価：2,500 円（税込）
ISBN コード：9978-4-907936-21-1

会員による DVD リリース

奥 忍 さん 伝統音楽普及促進事業実行委員会編『DVD「能は面白い！」囃子編』
発行年月日：2018 年 3 月 2 日 [本体 DVD 1 枚+教材資料 CD-R]
助 成：文化庁 2017 年度助成伝統音楽普及促進支援事業
協 力：同志社大学経済学部創造経済研究センター
定 価：[実費 1,000 円+送料で頒布]
問 合 先：denon@gmail.co

『音楽表現学』 Vol.16 原稿募集

〆切は 2018 年 5 月 15 日 24:00 です。

『音楽表現学』編集委員長 吉永 誠吾

投稿〆切は昨年度から約 2 週間早まっています。

投稿資格：投稿者および共同執筆者は、「その年度の年会費を納入した会員に限る。」(投稿規定 3)

執筆要領・投稿方法：『音楽表現学』Vol.15 の巻末、または学会 HP の「投稿規程」をご覧ください。

投稿書式：投稿時点では 2 段組でなく、1 段組でご応募ください。

引用文献の記載方法：HP に例示しています。

執筆方法：本学会発行『2015 年版研究論文執筆のしおり』を参考にされることをお勧めします。

- * 投稿する前に、ご自身が上記「投稿資格」に該当することをご確認ください。
- * 本学会発行『2015 年版研究論文執筆のしおり』を座右にご執筆ください。執筆者の意図が読み手に伝わるかどうか、投稿前に周りの知人に一度読んでもらうことをお勧めします。
- * 応募原稿が論文及び学術誌の原著性を損ない、論文の著作権の帰属に関する問題や研究実績の不当な水増しにもつながり得る「研究者倫理に反する行為」にならないよう注意してください(文部科学省ガイドライン)。
- * 投稿に際しては学会 HP に掲載されている「音楽表現学テンプレート」をご使用ください。
- * 投稿する前に、投稿予定の原稿が学会 HP の「投稿チェックリスト」に適合していることをご確認下さい。
- * 投稿原稿には学会 HP に示された書式の「投稿申込書」を同封してください。
- * 『音楽表現学』には昨年度から「原著論文」「評論論文」「研究報告」の他に「批評」「書評」「寄書」「展望」「解説」「その他、国際会議参加報告、研究所紹介等」も掲載できるようになりました。執筆に挑戦してみようとお考えの方はどうぞ学会事務局までお問い合わせください。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

数多くの会員の皆さまが日頃、演奏をはじめとして様々な音楽表現に関する活動をしておられます。またそのために大いに研鑽を積んでおられることでしょう。その研鑽の記録、演奏表現の比較、演奏表現の問題点などを文章にしてみてもいいかもしれません。会員の皆さまの活動が論文や記事の形で残されるならば、本学会の存在がますます重みを増すものになると考えます。数多くの会員の皆さまが応募されることを願ってやみません。



『音楽表現学』 Vol.16 に投稿をお考えの方へ

毎年『音楽表現学』には多くの方が投稿してくださっています。編集委員会ではそれら投稿原稿と査読委員の意見を1本ずつ丁寧に読み込み、採択するに相応しいかどうか、議論を重ねています。しかし、過去の投稿原稿の中には急ごしらえのものや、メ切間際にエイヤッと決心をしてメ切日の23:59に送られてくるものもありました。投稿は自分の主張を人に読んでもらい、理解してもらうためのものです。もしも「書く」行為そのものに意味があると考えられるのなら、ご自分の引き出しにそっと隠しておけばよいのです。

「人に読んでもらう、理解してもらう」投稿原稿を作成するために次の諸点に留意されるようお勧めします。

- ① 最初に本学会発行の『2015年度版音楽表現論文執筆のしおり』を一読されることをお勧めします。『しおり』にはこれから書こうとする人のために多くのヒントや練習が記載されています。
- ② 原稿完成を締切日の1週間前を目処にして作成されることを強くお勧めします。
- ③ 「完成した」と思ったら一晩寝かせてください。
- ④ 翌日、完成した原稿と「投稿チェックリスト」の項目を照合して、原稿が各項目を充足しているか、確認してください。
- ⑤ 同時に回りのだれかに読んでもらいましょう。他の分野の方でも構いません。読んでもらうことによって、自分の主張・意図を自分が考えているように理解してもらえるかどうか分かります。
- ⑥ 採択される原稿の多くは、以下のような要件を備えているといえます。
 - ・『音楽表現学』に掲載原稿として、内容や主題が適切である。すなわち、問題設定と研究方法・研究対象が、音楽表現研究として妥当であり、説得力がある。
 - ・関連する先行研究を十分にふまえた上で、未発表の原稿としてオリジナリティがある。
 - ・題名が内容に対して適切である。
 - ・論旨の展開に矛盾や飛躍がない。
 - ・章・節の構成や順番が適切である。
 - ・結論は、はじめの問題設定に答えるものとなっている。
 - ・扱われている資料は信頼できるものであり、資料の解釈には妥当性がある。
 - ・『音楽表現学』の読者(音楽家・音楽研究者)が必ずしもその問題や領域の専門家であるとは限らないことを配慮している。
 - ・文章は明晰で、特殊な用語や表現などは正確に説明されている。
 - ・文章の引用方法や注・文献表記、譜例や図表は適切である。
- ⑦ 演奏する曲を何度も繰り返し練習するように、自分の文章も何度も読み直して推敲しましょう。推敲は執筆者の主張の客観性を問い直すとともに、読み手に誤解なく伝わる文章へと原稿の質を高める過程でもあります。推敲に十分な時間と手間をかけてください。その熱意が原稿の評価へと結びつくでしょう。

皆さまの投稿をお待ちします。

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

(1) 納入期限：その年度の4月1日から大会開催1週間前までにお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。滞納されますと、大会の開催、機関誌の発行など、さまざまな活動に支障をきたします。例年4月の年度当初に速やかな納入をお願いしています。年会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。なお、3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

(2) 振込方法：同封のゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」をご利用ください。

電信での送金は、内容確認が困難であり混乱の原因となります。学会では、財務局での入金確認作業を確実にするため、学会で印字した「払込取扱票」の利用をお願いしております。何卒ご協力ください。

振込先：郵便局の振込み口座 01370-6-78225 名義：日本音楽表現学会

* 海外在住等、国内でのお振込みが難しい方は、事務局へご相談ください。

(3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へお問い合わせ下さい。

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）を領収書として保管ください。

大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

(4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度 学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから以下の書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

「年会費減免願」書式（20170321版）：

被災による年会費減免願	
	年 月 日
日本音楽表現学会	
会長 後藤 丹 様	
このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。	
なお、(〇〇〇〇)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名：	_____
現在の連絡先：	_____
連絡先電話番号：	_____
e-mailアドレス：	_____
減免申請の理由（具立的に納付困難の理由をお記してください。）	

2. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせをお願いします。

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。また、経費節減のために学会からの郵送物は郵送ではなく、「クロネコヤマトのDM便」を使っています。郵便局宛の住所変更届は民間業者には届きません。学会からの送付物が必ずお手元に届くように、また返送による送付作業の手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

郵便局への住所変更届は民間業者には届きません。

3. 学会会員のサポート制度

(1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は5月15日24:00です。

(2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。2018年度の申込み期日を忘れて発表の機会を逃した会員が数名ありました。〆切期日は厳守ですので各自で明記してください。

大会発表応募〆切は、例年2月28日です
早めの応募をお待ちしています。

4. 会員への情報公開

(1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。研究ノート、随想などを図表等を含めて刷り上がり1頁以内でお送りください。

(2) コンサート等の後援・協賛

本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請 フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニュースレターにも案内を掲載させていただきます。なお出演者氏名の掲載は会員のみとなります。以下の項目それぞれ1行で39字以内を原則とします。

[コンサート等後援／協賛申請フォーム]

(文例) 以下のコンサートの後援をお願いします。

会員氏名： _____

演奏会タイトル： _____

日 時： _____

会 場： _____

料 金： _____

出 演 者： _____
(NLには会員名のみ掲載)

主な曲目： _____
(原則として1行で39字以内)

問い合わせ先：ホール電話番号 _____

*個人の携帯番号・メールアドレスはセキュリティ上、本会としては記載不可といたします。

(3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名(会員)、書名(ISBN)、出版社、価格(税込)、購入方法なども含めてお知らせください。ニューズレターとHPに掲載します。

(4) その他：隣接領域の研究會等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

5. 学会発刊の書籍の販売について

(1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法と価格

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1は残部がありません。

Vol.	会員価格(1部)	一般価格(1部)
2～3	2,500円+送料	3,000円+送料
4～14	3,000円+送料	3,500円+送料
15以降	2,500円+送料	3,000円+送料

(2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中。

[購入申込書]

メール等で事務局までお申し込みください。会員価格にて購入いただけます。代金は、到着後書籍に同封の郵便振替でお願いします。

会員価格：2,900円(正価×0.9-α、税込・送料込み)

一般価格：3,456円(本体+税)

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。

氏 名： _____

部 数： _____

送 付 先： _____

連絡用 E-mail： _____

6. 入会手続きについて

メール貼付をお願いします。

本会機関誌への投稿や大会での発表の申込みは本会会員であることが条件です。手続きには2～3週間かかります。以下の書式を用いてメールで早めにお申し込みください。

- ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。
- ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

[入会申込書フォーム]

入 会 申 込 書 日本音楽表現学会に入会を申し込みます。 年 月 日
氏名（ふりがな）： _____
専門分野： _____
所 属： _____
自宅住所：〒 _____
連絡先：（上記と異なる場合）〒 _____
連絡先 Tel.： _____
e-mail： _____
推薦者名（学会員・1名） _____
音楽表現学会に期待されること、ご意見等：

7. 退会手続きについて メール貼付をお願いします。

退会には以下の3点が必要です。「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

- ① 「退会届」をHPからダウンロードし、事務局に提出
- ② その年度までの年会費完納
- ③ 理事会の承認

[退会願書フォーム]

退 会 願 年 月 日
日本音楽表現学会 会長 後藤 丹 様
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。
なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。
氏 名： _____
連絡先： _____
連絡先 Tel.： _____
e-mail： _____
退会理由：

日本音楽表現学会第16回「折り鶴」大会のご案内

会場：広島文化学園大学長東キャンパス
 期日：2018年6月9日(土)・10日(日)



部屋番号表示例

0501：本館5F 01号室
 3○○○：3号館
 6○○○：6号館
 7○○○：7号館

受付：第1日 本館5Fロビー
 第2日 本館玄関
 昼食・休憩 6号館
 1F学生食堂・2Fラウンジ
 クローク 0310・0311

基調講演～総会 0501
 サロン・分科会A 0501
 サロン・分科会B 0401
 サロン・分科会C 0301
 サロン・分科会D 0305
 サロン・分科会E 7301
 サロン・分科会F 3305
 サロン・分科会G 6301
 サロンH 3404

実行委員会控室 0410
 理事会控室 0407
 会議室 0210
 (理事会・編集委員会)

安芸長束駅からの行路(徒歩)

- ① 1km 弱の平坦路を道なりに進み、公園の角を左折すると、突きあたりに大学キャンパスの階段が現れます。
- ② 108 段の階段を登ると本館正面到着。108 段が困難な場合には破線で示したバス道を上ってください。

2017 年度役員・委員等一覧

会長：後藤 丹 副会長：小西 潤子 加藤富美子 事務局長：豊田 典子 財務局長：應和 恵子 理事：木下 千代 (事務局担当) 海津 幸子 (財務局担当) 藤原 嘉文 (総務担当) 安藤 珠希 (総務担当) 編集委員会： 委員長 吉永 誠吾 副委員長 水戸 博道 委員 大竹 紀子 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武 中 磯子 宮本賢二朗	著作権ワーキング： 代表 中村 滋延 委員 近藤 晶子 酒井 勇也 高橋 豊 福本 康之 選挙管理委員会： 委員長 笹野恵理子 委員 大澤 智恵 檜下 達也 監事： 渡会 純一 小畑 郁男	会長諮問会議：安藤 政輝 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香 参事：(事務局) 似内裕美子 (事務局) 松井 萌 (情報関連) 近藤 晶子 デザイン室長：奥 忍 (スタッフ：松宮 和子)
--	--	--

編集後記

この冬は何年かぶりの大寒波が到来しました。そして今や、桜前線は急速に北上しています。ニューズレター 2017 年度 No.3 をお届けいたします。今回のトピックスは会長・理事選挙結果報告と第16回「折り鶴大会」のご案内です。選挙についてはみなさま、ご協力をありがとうございました。また、折り鶴大会の研究発表には大変多くの方々にお申込みいただきました。そのため初の試みとしてお昼時間も通して10コマを7会場で同時進行するプログラム編成となりました。第1回設立大会の思いを馳せながら広島へお越しください。

役員体制は「折り鶴大会」の総会で承認を経た後、新メンバーを迎えて出発いたします。多くのみなさまのさらなるご協力をお願いいたします。広島でお会いしましょう。(安藤 珠希)